

令和6年度 教育指導の重点及び学校経営計画

学校番号 14 学校名 本巣松陽高等学校

<p>学校教育目標 (教育方針)</p>	<p>「知・徳・体」の調和のとれた、人間性豊かでたくましく生きることのできる生徒の育成 1 知：学力の向上 2 徳：人間力の育成 3 体：活力の高揚</p>	
<p>3つの方針 (スクールポリシー)</p>	<p>どんな生徒を 育てたいか 【GP】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広い視野と確かな学力をもち、自ら見出した課題に、粘り強く取り組むことができる生徒 ・ 自分の良さや可能性を認識し、コミュニケーション能力を発揮して、多様な人々と協働できる生徒 ・ 心身の健康を常に心掛け、自律的な生活ができる生徒
	<p>生徒をどう 育てるか 【CP】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎的・基本的な知識・技能を習得させるとともに、地域との連携を大切にして「探究的な学び」を推進 ・ すべての教育活動において共感的な人間関係づくりを進めるとともに、「対話を重視した、楽しくわかる授業」を推進 ・ 校内外の活動における主体的な取り組みを支援することで、「自ら考え行動できる力」の育成を推進
	<p>どんな生徒を 待っているか 【AP】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己実現に向けて、学習に取り組み、何事にも挑戦したいという熱意のある生徒 ・ 自他を尊重し、人とのつながりを大切にする生徒 ・ 地域の一員として自覚をもち、自主的な活動に積極的に参加したいという意欲のある生徒
<p>学校の抱える課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 観点別評価の在り方。ICT環境の活用推進。総合的な探究の時間の充実と指導体制の確立。 ・ いじめ事案において加害とされる対象が不明瞭である場合の対応の困難さ。努力義務下でのヘルメット着用率が低い状況。 ・ 生徒の学びに向かう姿勢の育成。複雑化する大学入学試験の情報のわかりやすい伝達。 ・ 生活習慣病、視力低下の増加。保健室頻回来室者の悩みの複雑さ。様々な持病を有する生徒への対応。 	
<p>教育指導の重点</p>	<p>領域・分野</p>	<p>今年度の具体的な重点目標</p>
	<p>学習指導</p>	<p>(1) 授業を大切にします。 (2) 基礎学力を付けます。 (3) 学習に向かう姿勢を育みます。</p>
	<p>生徒指導</p>	<p>(1) 心の結び付きを大切に育みます。 (2) 信頼され協働し活躍する場面を作ります。</p>
	<p>進路指導</p>	<p>(1) 生徒一人一人が、ふさわしいキャリアを形成し自立していけるよう、意欲・態度・能力を育成します。</p>
	<p>保健管理</p>	<p>(1) 「生きる力」をはぐくむ指導をとおして健康で安全に生きるための知恵と実践力を養い、心身共に健康的に生きる生徒を育成します。 (2) 自ら安全で快適な学習環境づくりと校内美化に努め、より良い環境で生活するための知恵と実践力を備えた生徒を育成します。</p>

年度目標			
領域分野	3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な具体的な取組・方策	県教育振興基本計画での位置付け	達成度の判断・判断基準あるいは評価指標
学習指導	一人一人に合う到達目標を定め、目標実現につながる授業を行う。	8	施策Ⅱ-8 ①「生徒及び保護者アンケート」の「学習指導」に係る肯定的な評価が80%
	協働して学び、考えを深め合える授業を行う。	8	②「授業アンケート」を通して、生徒の自己評価と授業評価を行い、授業の質的向上を図る。
	I C T環境の授業への活用を推進する。	9	③総合的な探究の時間における「生徒アンケート」において、肯定的な評価が80%
	探究の仕方を学び、地域課題を探究する。	4	施策Ⅰ-4
生徒指導	職員と生徒、生徒と生徒が信頼関係を築ける時間、積極的に対話を重ねる時間を設け、その信頼感の上に立って、ルールやマナーを指導する。	1	施策Ⅰ-1
	多様性時代であることを理解し、相互に配慮し合って生活するための人権意識を育成する。	2	施策Ⅰ-2 「生徒及び保護者アンケート」の「規範意識の育成」「豊かな人間性の育成」「自主性・主体性の育成」が、全て80%以上
	スクールカウンセラー、スクール相談員と連携し心のケアを行うとともに、「いじめを絶対に許さない学校」であり続ける。	3	施策Ⅰ-3
	自分らしさを発揮しながら、自ら進んで取り組める行事や機会を提供し、教科指導では授業中に生徒が活躍する場をつくる。	1	施策Ⅰ-1
進路指導	個々の生徒の進路希望に応じた学びを実施する。補習、小論文面接指導、実力試験、模擬試験を実施する。	8	施策Ⅱ-8 ①模擬試験等の結果から、進路目標を達成するための力が身に付いているかを判断する。
	出前授業や進路講演会等を実施し、将来の夢や職業について考えさせる。	13	②講演会や各種体験等に対するアンケート結果から、進路意識が高まっているかを判断する。
	小学生に算数を教えるボランティア、幼児園実習、ふれあい看護体験を通して、地域を知る。	4	施策Ⅰ-4
	LHR等で進路について考える授業を実施する。	8	施策Ⅱ-8
保健管理	健康診断の事前・事後指導を徹底する。	16	施策Ⅲ-16 健康診断後の受診率50%以上
	食物アレルギー対応シミュレーションを実施する。教職員研修（エビベン）を実施する。	17	施策Ⅲ-17 生徒の食物アレルギー等相談・対応率80%以上
	適切な換気を徹底し、感染拡大を防ぐ。	18	施策Ⅲ-18 換気徹底率（CO2モニター・サーキュレーター利用）100%
	異なる危険を想定した命を守る訓練を実施する。（年間3回）	19	施策Ⅲ-19 「生徒及び保護者アンケート」の「地震や火災、台風等の対策」に係る項目の肯定的な評価 80%以上

年度末評価（自己評価）			
取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	評価 A. B. C. D	成果と課題	総合評価 A. B. C. D
<ul style="list-style-type: none"> 各教科会や年次会で授業の在り方について情報共有し、日々の授業実践を行った。 「生徒及び保護者アンケート」の「学習指導」に係る肯定的な評価は、生徒・保護者ともに80%を上回ったが、外部との連携に係る内容は65%程度にとどまった。 総合的な探究の時間における「生徒アンケート」の肯定的な評価は、3年間全体の活動については88%、「地域探究課題」の活動については78%程度であった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○警報発表時のオンライン学習支援 ○生徒対象授業アンケート2回実施 ○全職員の公開授業実施 ○ふるさと教育週間の授業参観実施 ○地域の方による探究活動のファシリテーション及び探究発表会講評の実施 ▲ICT環境の授業への活用推進 ▲観点別評価の在り方 	B
<ul style="list-style-type: none"> 「生徒及び保護者アンケート」の「規範意識の育成」「豊かな人間性の育成」「自主性・主体性の育成」に係る評価において、生徒からは80%以上の肯定的な評価を得たが、保護者からは80%に届かない項目もあった。問題行動や一方的ないじめ行為は多くないが、コミュニケーション不足による人間関係のトラブルに悩む生徒が見られる。未然防止、早期発見に努めるとともに、生徒間の絆を深める取り組みを推進したい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○人権講話では、多様性を認め合える人権意識を培うことを目標とし、多文化理解について外国語を母語とする講師より話を聞いた。生徒の感想も理解が深まったという内容がたいへん多かった。 ▲授業への積極的な参加については、まだまだ改善の余地がある。授業改善を進め、充実感や達成感から自己有用感を感じさせていきたい。 	
<ul style="list-style-type: none"> 小論文面接指導では、職員全員で分担し、個別指導を行いきめ細やかな指導ができた。 社会と未来セミナー、進路ガイダンスなどの進路講演会を実施し進路理解を深めることができた。 幼児園体験、看護体験、数校校ボランティアに多くの生徒が参加し、キャリア意識を高めることができた。 LHRの時間を通して、進路のしおり等を使った指導を行った。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○面接・小論文指導を行い、多くの生徒が推薦入試等で合格することができた。 ○一般入試を見据えて、外部模試へ取り組み方の指導をする必要がある。また保護者への進路説明会を今後行っていきたい。 ○各種講演会では、進路に対する興味、関心を深めることができた。 	
<ul style="list-style-type: none"> 12月末の受診率37.8%、昨年より10%低い。検診後クラス全体への通知と個人宛（11月中旬）の通知を実施。 アレルギー対応委員会、シミュレーション研修の実施。（参加率80%、不参加の方へは資料配布） 保健委員によるCO2測定、年4回。（3回測定済全て基準値内）学校薬剤師による点検。（年3回、換気・空気全て基準値内）サーキュレーター利用100%。 命を守る訓練（年3回、避難経路の確認・火災・地震）実施済み。高校生防災アクション（減災カテスト）実施。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○むし害（放置者）への通知にコメントを添えたことで受診率が上がった。 ▲受診への通知を配布するだけでなくクラス担任からも積極的な呼びかけをお願いしたい。 ○学校医、薬剤師の方から肯定的なご意見を頂けた。 ▲緊急対応時の研修は継続が必要。エビベン以外にバクスマー等も追加していく。 ○換気の徹底により感染症による学級閉鎖なし。換気は感染拡大の対策として有効なので継続していく。 ○学校で実施する防災の取り組みから、それぞれの家庭や地域へと繋げる。（防災備蓄や地域の防災訓練などへの参加） 	

来年度に向けての改善方策等

実施日：令和7年1月23日

<ul style="list-style-type: none"> 授業でのICT環境の活用推進を進める。観点別評価の在り方を確定させる。 豊かな人間性を育むための生徒に対する支援や指導を継続しつつ、保護者への周知と理解を求めていく。 進路意識を高めるため、生徒だけでなく保護者に対する説明会を実施していく。教員間でも入試対策法等を共有する。 健康診断後の受診率向上のための方策を進める。アレルギー対応のための職員研修を続ける。

学校関係者評価

実施日：令和7年1月23日

<ul style="list-style-type: none"> ICT環境の整備やタブレット端末貸与の状況、活用推進の取組み状況がわかった。観点別評価の在り方の方向性が明確になってきた。 総合的な探究の時間を活用して、生徒が主体的に活動できる仕組みづくりを進めてほしい。 選べる制服の在り方が本校の特徴となっている。今後も制服の選択肢を増やすことや暑さ対策を進めてほしい。 多様な受験制度に対応するきめ細やかな進路指導を今後も全校体制で継続してほしい。高校卒業後の進路を周知することで、学校の魅力発信となる。 保健管理については、アレルギー対応研修や感染症予防対策など積極的な取組みが評価できるので次年度も継続して活動を行ってほしい。
